

かけはし 掛川市男女共同 参画情報誌 かけはし

男性と女性 人と人
家庭・地域・学校・職場・行政を
互いにつなぎ合う

広める つなぐ 支えあう すてきな明日へ…

～地域をめぐるさわやかな風～



大須賀第3地区 城前団地区長 樽見美代子さん
就任1年目、副区長と8班中5名の班長が女性

大須賀の祭りの伝統は男性が担うものですが、自治会は、はたして女性に開かれるものか不安でしたが、第3地区はもとより大須賀全体の区長会でもすんなりと理解と協力を得られて大変うれしく、大須賀の男性を見直した思いです。自治会の役員に就くことに一歩引く女性が多いのですが、踏み出してみれば人との繋がりができ大変さが感謝に変わります。今年度は防災訓練に津波対策が加わり、大変さを認識したため、5月にも津波訓練を実施しました。さらに充実して、防災予算なども確立していきたいと思ひます。

城北地区城北町区長 桑原百合子さん

在職3年目、役員7名中女性が3名、女性の副区長は6代目

約300世帯の大所帯を束ねる活動の中で、特に女性としての特徴を出すことはしません。役員7名で連帯感を持って、いっしょにやっていくのみです。イベントなどの事後は、関わって下さった皆さんに、ねぎらいの気持ちが行き渡るように心がけています。男性に「女性でもできるものなんだなあ」と言ってもらえれば前進であり、女性役員がいるのが普通に思える自治会になっていくと思ひます。



和田岡地区 吉岡団地区長 宮崎里恵さん
就任1年目、今年の3役はすべて女性

和田岡地区の区長会の会議でも、女性の参画は歓迎されていると感じています。3役はそれぞれ組長も兼務していますので、補修・管理や外国人世帯とのコミュニケーションなど、何でも屋をこなしますが協力しあってやっています。区長には、掛川市の情報がいち早く伝わってくることで、自治会の運営にやりやすさを感じています。

毎年、自治会3役の中に女性が入ることで、自治会運営に女性が参画することになり、これが続くことが大切なことなのだと共通におっしゃっていました。

～看護師の道、日々一所懸命～



掛川市在住イクメン中
大庭光晴さん



看護師になった動機は、自分の知識、判断、行動が直接相手に反映される責任の大きさと、日々自分の成長が感じられるやりがいある職業だと思ったからです。東日本大震災については、自分が病院にいる時どのような対応が出来るのか自分の役割は重いと感じました。



袋井市在住
芝田圭史さん



看護師になった動機は、人のためになりたいと自分の中で真剣に考え、それを感じさせてくれるのが看護師だと思ったからです。東日本大震災については、物資を送りましたが、他にも何かできることはないかと思っています。

今年4月から掛川市立総合病院に勤めています。掛川市立総合病院には男性看護師が12人います。女性が多い職場ですが特に意識することはありませんでした。配属先も決まり先輩看護師について学んでいます。最初は緊張して先輩に質問ができませんでした。が、気遣っていただき、きめ細かな指導でも感謝しています。女性看護師の方は、書類の書き方にしてもとても詳しく記入しますが、私達はまとめて一言で書いてしまいます。また、マニュアル通りにはできるのですが臨機応変に弱く、融通がきかないためその場での処理ができなく戸惑うことがあります。しかし、先輩男性看護師の支えもありくじけることはありません。ただ患者さんの中には男性看護師にまだ違和感を感じている人がいるようですが、力の弱いお年寄りからは喜んでいただいています。

先輩看護師の杉山久美子さんは、「看護職は男性が必要であり、また男性がいることで雰囲気が変わります。」とおっしゃっていました。

お二人とも将来は早く立ち立ちできるよう、一日一日一生懸命、技術、知識を得たいと話されていました。看護師は女性男性は関係ないようです。とにかく毎日が夢中で早く先輩看護師と同じように、一人前になりたいという強い意気込みが伝わってきました。新病院でさっそうと御活躍されるお二人に、再度お目にかかりたいと思ひました。

宣言事業所募集中!!

「仕事に活気 生活にゆとり」を

宣言に関するお問合せ

静岡県男女共同参画課

☎054-221-3363

または県ホームページまで

静岡県 宣言

検索

- 株式会社 飛鳥工務店
- 株式会社 エイブルあすか薬局
- 遠州沖ちゃんクラブ
- セントラル販売 株式会社
- 有限会社 土屋材木店
- 有限会社 中宿調剤薬局
- 有限会社フジクラ・コミュニケーションズ
- 矢崎部品 株式会社 大浜工場

新しく宣言した事業所をご紹介します。



ひとりで悩まないで「掛川市女性相談室」

毎週 火曜日

あなたの悩みや困っていることについて、女性力ウンセラーがお聞きします。まずは話してみませんか。

相談例 出産、育児の悩み…、離婚の悩み…、虐待や家庭暴力の悩み…、など

	相談日	電話番号
面接相談 (要予約)	毎週火曜日 13:00～16:00	0537-21-1129 (予約専用)
電話相談	毎週火曜日 10:00～12:00	0537-21-1119 (電話相談直通)

※祝日、年末年始はお休みになります。

○面接相談 予約制・相談料無料 秘密厳守

東日本大震災により被災されました多くの皆様方に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます

掛川市においては発災当初から、人員の派遣・物資の提供・義援金・被災者の受け入れ等、迅速に行って来ました。取り分け人員の派遣は、各方面から大勢の方が被災地へといち早く赴き、現地スタッフと共に復旧支援にご尽力されました。

3月下旬から5月下旬にかけて、岩手県・宮城県への派遣された4名の方々から、この度、現地での活動の様子や今後に向けての備え、また被災地において必要とされる男女共同参画の視点に立った、避難所の運営や支援についてお話をお伺いしました。



地域医療推進課
東部地域健康医療支援センター
(東部ふくしあ) 所長
保健師
松下きみ子さん

厚生労働省から静岡県を通じて、掛川市に保健師の派遣依頼があり、静岡県災害支援第8班の班員として、5日間仙台市若林区で保健活動をしました。余震の恐怖を感じながらの活動でしたが、保健師として避難所の皆さんの健康支援や家庭訪問で健康や生活状況の確認を行いました。短期間の支援には限界があり、決められた活動内容を踏み越えないことが、次の支援者の活動につながって行くということを念頭に置いての活動でした。

長期化する避難所生活においては、衣・食・住・プライバシーなどの様々な課題があり、その一つ一つを解決する役割を自治会が大きく担っていました。しかし、一部の避難所での会議や会合は男性が中心になりがちで、日々忙しく動き回り、黙々と生活している女性の声がどこまで反映されていたのか気になりました。自治会や防災の役員組織の中に、女性が入る必要性はもちろんですが、幅広い年齢層の方が入る必要性も痛感しました。

女性はどのような状況下でも適応能力が高く、明るく元気です。その女性の元気が、明日へと繋がると確信しています。

平成23年度掛川市男女共同参画推進委員会

市からの委嘱を受け、男女共同参画の推進に取り組んでいます。

主な活動は、情報誌「かけはし」の発行、宣言事業所の推進、講座の企画、開催などです。広める つなぐ 支え合う を合い言葉に活動していきたいと思っています。



山中恵子／窪野愛子／戸塚明美／落合弥生
伊部 透／久保田成子／山崎直美／村松美江／近藤光博

地震・津波・火事 支え合う人と人 ～被災地から学ぶこと～



発災後2週間足らずの現地に車で行きました。連日ガソリンや灯油不足のメディア報道もあり、ガソリンの確保がとても心配でしたが盛岡市で給油が出来、派遣地の宮古市や山田町に入りました。両市町は、地震の揺れによる家屋倒壊はほとんど見受けられないものの、津波直撃による被害は、言葉では言い表せないほどすさまじいものでした。

現地社協職員や支援社協職員と連携を取りながら、災害ボランティアセンターの立ち上げや活動支援・生活福祉資金特例貸付窓口業務・現地社協支援等の活動をしました。

今回の活動を通して、普段からの隣近所の支え合いの大切さを改めて感じました。掛川市にはそれぞれの地域に地域福祉協議会があり、ふれあいいきいきサロンなどの交流や、小地域福祉ネットワーク活動など、平常時から住民同士がつながりを持つ活動を行っています。発災時だけではなく、普段からちょっとした助け合いのできる、地域づくりを支援してきたいと思っています。



東部地域健康医療
支援センター(東部ふくしあ)
(掛川市社会福祉協議会)
コミュニティソーシャルワーカー
松浦春伸さん



掛川市社会福祉協議会
ボランティアコーディネーター
春田篤志さん

県社協の支援要請を受けて、山田町災害ボランティアセンターに派遣され、配車・資財の業務に携わりました。山田町職員の皆さんは被災以降、余りにも大きな被害のため休む暇もなく、勤務にあたられていたため少しでも、負担の軽減を図ってあげたいと思い活動しました。山田町においては、住民へのセンター開設の周知やボランティア派遣要請を促す発信も必要でした。ボランティアセンターの運営については、平常時からあらゆることを想定し、災害に備える体制作りが大事だと改めて感じました。車で片道10時間以上かかる被災地ですが、一度は現地を訪れてほしいと思いました。目の前に広がる惨状を目の当たりにすることにより、これから自分たちが何をなすべきかが見えてくると感じました。

県災害ボランティアに応募し、現地でがれきの撤去や女性向け支援物資の仕分け等の活動をしました。がれきの撤去や土のうを詰める作業は、かなりの体力が必要でした。家屋の中の物全てが海水に浸かり、それをがれきのほこりの中、洗い流す作業をしました。作業をしながら被災者のさみしさ、悲しみに寄り添っての声掛けが大切だと感じました。

支援物資の中の衛生用品やおむつなどの仕分けには、女性ならではの配慮が必要でした。避難所生活の長期化により、いろいろな問題が生じますが、男女が共に助け合い、役割分担して行う自治、地域コミュニティの絆の大切さを感じました。また、防災訓練の大切さも痛感し、誰のためにでもなく自分自身のために是非、訓練には積極的に参加してほしいと思いました。



掛川市社会福祉協議会
ヘルパー
杉本房子さん

発行日 ● 平成23年9月1日
編集 ● 掛川市男女共同参画推進委員会
発行 ● 掛川市生涯学習まちづくり課
男女共同参画係
〒436-8650 掛川市長谷1-1-1
電話21-1129/FAX21-1164
Mail : tiiki@city.kakegawa.shizuoka.jp

この情報誌は資源リサイクル推進のため、再生紙を利用しています。